

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果について

南丹市立殿田小学校

令和8年4月に第6学年において、文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施しました。これは、児童の学力や学習の状況を分析し、結果と課題を検証して児童への教育指導の充実や学習状況の改善を図ることが目的です。

本校の結果を基に学力傾向についてまとめました。その概要についてお知らせします。

【全国学力・学習状況調査】の内容（文部科学省 実施要項より）

- 教科に関する調査（国語及び算数において、下記の①②を一体的に問う内容）
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- 質問紙調査
 - ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

1 本校の調査結果

教 科	国 語	算 数
全国比較	高い	高い

全国の平均正答率比較

平均正答率比較の基準（％）	-10 - 5 + 5 +10				
	低い	やや低い	同程度	やや高い	高い

2 国語科の結果から

- ・ 特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、言語事項の学習内容が全国平均を上回っており、学習内容が十分に身に付いていると考えています。しかし、漢字を書く内容については全国平均を下回っています。
- ・ 「話すこと・聞くこと」「読むこと」については全国平均を上回りましたが、「書くこと」については下回りました。
- ・ 問題形式別では、「記述式（文章を書く）」が全国平均を大きく上回り、自分の考えを表現する力が付いてきています。

3 算数科の結果から

- ・ 全ての領域において、正答率が全国平均を上回っており、今までの学習内容が着実に身に付いていると考えています。
- ・ 「変化と関係」の領域は、全国平均を大きく上回りました。「割合」の学習内容が定着していると考えています。しかし、「データ活用」の領域では、二次元の表を読み取ることが課題と考えられます。示された情報を正しく読み取る力を付ける必要があります。
- ・ 問題形式別でみると、算数も国語と同様に「記述式」が全国平均を大きく上回っています。式・答えだけでなく、なぜそうなるのか、どのように考えたのかについて、他の児童に説明をしたり、順序良く書き表したりする力が身に付いてきています。

自分の考えを伝え合い、学びを深める授業の実現に向けて、児童が主体的に学習に向かえる仕掛け、だれもが「わかる」「できる」と感じられる工夫、考えを表現し伝え合える場の設定を大切に授業改善に努めていきます。

4 質問紙調査から

- ・ 「国語の勉強が好き。」「算数の勉強が好き。」「英語の勉強が好き。」と回答した児童が多く、どちらも全国平均を上回る結果となりました。これからも、児童が学ぶ楽しさや喜びを味わえる授業づくりをしていきます。
- ・ 「国語の授業内容がよく分かる。」「算数の授業内容がよく分かる。」と回答した児童も多く、どちらも全国平均を上回る結果となりました。どの児童も「分かった。」「できた。」と感じられるよう、更なる授業改善に努めます。
- ・ 「学校の授業時間以外に、どれくらい読書をしますか。」の質問について、1日あたり30分未満と回答した児童が約4割いました。児童が読書に親しめるよう、図書室の利用を推進するなどの指導をしていきます。
- ・ 「自分によいところがあると思いますか。」の質問について、全員が肯定的な回答をしました。今後も自己肯定感を高めるように、人権教育・道徳教育を基盤に豊かな心を育てる教育の充実に努めます。
- ・ 「学校に行くのは楽しいと思いますか。」「友達関係に満足していますか。」「学級で、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。」の質問について、全員が肯定的な回答をしました。児童にとって学校は安心して学べる場になっていると考えられます。
- ・ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の質問に8割以上の児童が肯定的な回答をしています。学校教育目標の「ひよし大好き 殿田の子」の実現に向けて、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域とのつながりを大切にしながらふるさとの魅力を感じることができるようにふるさと学習を進めていきます。